

医療観光研究会(第2回)議事録【概要】

(日 時)平成30年8月3日(金) 19:00~21:00

(場 所)アバローム紀の国 4階 羽衣の間

(出席者)岡村座長、上野氏、檉畑氏、片岡氏、坂口氏、寺下氏、豊田氏、野尻氏、藤田氏、山西氏、吉田氏

(内 容)

■ 開催挨拶 商工観光労働部長

■ 出席者紹介

■ 議事

議題1 「医療観光研究会について」 資料1・2・3

議題2 「愛知県の医療ツーリズム推進について」 資料4

愛知県健康福祉部保険医療局医務課 主幹 上田智広氏による講演

議題3 意見交換

【主な意見】

□ 愛知県の取組について

- ・海外からの患者の希望は東京での受診が多いが、東京の予約が取れず、色々な窓口を通じて、愛知県へ流れてきている状況。
- ・藤田保健衛生大学や偕行会は独自に中国のチャンネルをもっている。そういうところは積極的に呼び込みを行っている。
- ・基本的に JIH、JMIP、JCI などの認証は有料で2~3年の有期。更新にも費用がかかる。
- ・認証取得に関する愛知県としての支援は金銭面ではなく、情報提供等。
- ・愛知県としてはこれから外国人受入れについて、裾野を広げていくことが課題。
- ・名古屋大学や市立大学の受入人数は少ないがツーリズムに熱心。偕行会で対応できない高度な医療が必要な外国人患者の受入を行っている。
- ・あいち健康の森健康科学総合センターでは、医療関係者の教育・研修を行っている。
- ・検診は比較的小さな民間の病院も参入しやすく、観光との連携もしやすいと考えている。
- ・粒子線や陽子線治療など高度な治療について中国のニーズは高いが、愛知県で陽子線治療のできる病院は名古屋市立名古屋西部医療センターだけ。
- ・愛知学院大学歯学部は将来的なことを踏まえ、ツーリズムに参加してくれている。関心は高い。

□ 医療観光研究会の検討時期や必要性に関するもの

- ・和歌山の認知度が高まってきたこと、国の国外へのPR組織が整備されたこと、医療が充実してきたこと、関西国際空港との隣接などを踏まえたうえで、このタ

イミングで研究会として、議論することが必要。

- ・医療通訳の問題等もあるが、万全な体制ができれば、積極的にPRできる。観光局としては進めていきたい。
- ・和歌山の医療の現状及び医療観光を進める上で注意すべきこと
 - 1: 公的、公立病院は地域医療の要であり、その役割に支障をきたさないこと
 - 2: 社会医療法人についても税制上の優遇を受けており、同様であること
 - 3: 外国人のみを対象とした医療観光ではなく、県民も享受するものであること
- ・公立病院で医療観光を進める場合は、地域医療に支障を来さない仕組み作りができればという条件が必要。
- ・医療をビジネスでやると無理があるのではないか。
- ・国民皆保険制度は他国にはない重要な制度。この制度に悪影響を与えないか十分に検討が必要。
- ・医療観光研究会で議論の対象とするのは、検診・健康増進を目的とした「ウェルネスツーリズム」と治療を目的とした「メディアカルツーリズム」(資料3)

□ 医療観光の方向性に関するもの

- ・現状、医療通訳について、和歌山県で組織的に対応しているところはない
- ・医療関係者として、訪日外国人の急病・急患には対応することは当然で、これは確保すべきもの。課題は言語。国に 1/2 補助の制度で有料の言語通訳が用意されているが、残りは病院負担。通訳の整備が必要。
- ・ウェルネスには、かなり豪華な機器や施設、建物を整備した上で、ハイレベルのことをやる必要で。片手間でやるなんてことは不可能。機器や施設整備の障害があり、やりたいが無理。ウェルネスへの算入は厳しい。
- ・高度・特殊な治療などを和歌山で提供できるかの把握が必要。中国の方が求めるレベルに達していないのでは。それをできる病院や治療機関が少ないと思う。人間ドックのレベルを高める必要もある。
- ・軸足をウェルネスの方に向けた方がよいように思う。
- ・中国の方は、自国の医師を信用していない。日本の医師を信頼し、セカンドオピニオンのニーズが非常に高いという面もある。
- ・藤田保健衛生大学はかなり大きく、偕行会も医療機器を輸出しているような病院。正直、和歌山ではメディカルツーリズムはしんどい。和歌山ではウェルネスの方が適している。
- ・中国の富裕層から、かなり高度な機械が要求されるので、和歌山のインフラがどこまで通用するのかの整理が必要。
- ・そのうえで、やる場合はJTBさんがやっているようなコーディネートと地元をくっつけてやっていくべき。
- ・医師会や病院協会などの専門の方の議論が必要。
- ・次回はメディカルツーリズム、ウェルネスツーリズムも含めた議論をしていく。